

世代をつなぐ かけ橋に

山交バス 女性運転士

平成27年9月に女性活躍推進法が施行され、女性の活躍の場が広がっています。山交バス株式会社（以下、山交バス）では、積極的に女性運転士を採用するため、平成27年11月に女性を対象とした大型バスの運転士の体験会を初めて開催し、平成28年には2名の女性運転士がデビューしました。山交バス本社をお訪ねし、女性運転士の仕事や、企業としての女性活躍推進の取組みについてお話を伺いました。

全国的に運転士が減少傾向にある中、山交バスでは、運転士の要員不足を解消するため女性運転士の採用に注目しました。

そこで、平成28年4月から、労働者の応募を増やすことと労働者に占める女性労働者の割合を増やし、女性が活躍できる雇用環境の整備を行うため、行動計画を策定し、「運転士に占める女性の割合を5%以上にする」という目標を掲げました。

目標達成に向けた取組みの一つは、広報の強化です。就職サイト等を活用し、路線バスに募集のパンフレットを設置するなどして女性運転士募集の周知に努めました。

もう一つの取組みは、運転士の体験会の実施です。実際にバスの運転を行い、先輩から話を



大沼 香さん

第2回女性限定体験会に参加
平成28年9月入社、10月乗務開始
主に西回り循環バスで活躍中



バスの運転士を 目指した理由

外回りの仕事をやっていた時は常に車の運転をしていましたし、父の影響で8トントラックの助手席に座る機会がありました。もともと車の運転が好きだったので、体験会に参加し、「女性でもバスの運転ができる!」と手心えを感じ、挑戦してみようと思えました。家族からは、最初は大変だからと反対されましたが、今は応援してくれています。



バスの運転で大変なこと

やはり、タイヤにチェーンを装着する作業が大変です。朝の点検時にバスのコンディションが良ければ、一日無事に乗務できると感じています。お客様からの応援の声を励みに、一日一日安全な運転を心がけていきたいです。

聞く機会を持つことで、バスの運転に興味を持っていただき、採用につなげようという試みです。現在活躍中の女性運転士は、体験会で初めてバスの運転を経験し、異業種の仕事から転職されたお二人です。



杉浦しのぶさん

第1回女性限定体験会に参加
平成28年4月入社、5月乗務開始
山形営業所エリア内の全路線で活躍中



バスの運転士を 目指したきっかけ

以前は花屋に勤めていたので、配達での運転経験はありましたが、バスの運転はもちろん初めてでした。体験会に参加し、運転席から見える風景の素晴らしさなど、バスの運転の魅力を発見し、「バスの運転士になりたい」と気持ちを強くしました。運転士になることを父に相談した時、最初は驚いていましたが、背中を押してくれました。



バスの運転士を 目指す方へ

運転が好きなら、男女問わずバスの運転士に向いていると思います。会社のサポート体制は整っていますので、興味があれば是非体験会へ参加していただきたいです。



女性運転士の採用を担当した飯山さんに、 二人の活躍についてお話を伺いました。

女性運転士を採用するにあたって女性専用の控え室を新設しました。その他のサポート体制は男性の新規採用者と同様です。バスの運行には、毎日の道路状況など運転士間の情報交換がとても重要になりますが、杉浦さんは積極的にコミュニケーションを取って、心配することはありませんでした。その姿を大沼さんはしっかりと見て実践しており、杉浦さんは良いレールを敷いてくれたと感じています。先輩の男性運転士たちも彼女たちの姿を見て、仕事をサポートしてくれるなど、相乗効果で職場に良い雰囲気できています。

総務部総務課長 飯山 徳彦さん

女性運転士は子どもたちにとっても人気があり



一日の仕事の流れ

シフトが組まれていますので、就労時間帯は毎日異なりますが、バスの出庫1時間前に出勤し、バスの点検を始めます。整備も自分でできる範囲は自分でやっています。乗務時間は一日に6時間くらいです。待機時間にはバスの洗車などをします。車庫に戻ると精算し、帰宅となります。



バスの運転で大変なこと

最初は、バス停を探すのが意外に難しいと感じました。「お客様が乗りやすく、降りやすく」を常に心がけて停車しています。また、雪道用のタイヤのチェーンが重くて苦労しましたが、だんだん慣れてきました。



バス運転士になって 嬉しかったこと

子どもたちから「私もバスの運転士になりたい」と言われることです。また、「女性運転士のバスに乗れて良かった」と声をかけていただくことがあり、お客様から受け入れてもらえることがとても嬉しいです。



今後の目標

高速バス、貸切バスの運転士も目指していきたいと思っています。

取材を終えて

安心・安全なお客様の足となり、目的地まで運んでくださるバスの運転士さんは、男女問わず、分刻みのスケジュールで忙しくお仕事をされています。杉浦さんは朝の乗務を終えたその足でインタビューに来てくださり、インタビュー後はバスの洗車へ、大沼さんは西回り循環バスに乗務されていきました。キラキラした輝くような笑顔で接してくださる運転士さんに出会ったら、一日がハッピーになるような気がします。お二人とも体験会に参加した時には「女性でもバスを運転できるのが意外だった」とのこと。案ずるより産むが易し、まずは第一歩を踏み出すことが大切ですね。

また、取材に伺ったときにお茶を出してくださいましたのは男性社員さん。「手が空いている人がお茶を出すことにしていますので、男女の区別はありません」と、社風も男女共同参画社会を先駆けているからこそ、女性活躍の場を広げる取組みが、すぐに受け入れられたのだと改めて感じました。

(編集協力員 山下みどり)